

スキーマ・スキーム

「何が何して何とやら」

【スキーマ (s c h e m a)】と【スキーム (s c h e m e)】をWeb上にて検索してみると、概ね以下の通りの結果 (意味) に収斂されるように思われる。

【スキーマ (s c h e m a)】

- 1) 英訳より、図式、図表、図解、概要、大要
- 2) I T用語として、データベースの構造、XML文書・DTD等で使える構成要素
- 3) M B A経営学として、ある決まったものの見方、考え方、幅広い概念
- 4) 心理学として、対象・状況を理解、記憶、再生するとき、働くもの

【スキーム (s c h e m e)】

- 1) 英訳より、計画、案、公式な事業計画、組織、機構、体系、仕組み、陰謀、策動等
- 2) 経済・経営学の例として、「企業再生スキーム」「融資スキーム」「基本スキーム」「事業スキーム」等、基本構想や基本計画を指し示す意味で使用されている。
- 3) 化学用語として、計画、模式図、図式
- 4) I T用語として「枠組みを伴った計画」「計画を伴う枠組み」

【スキーマ・スキーム共通と思われる意味】

共通の目的を持つ人々が理解し得る「認識」を説明 (見える化) したものの、もしくは、「共通認識」そのものを具現化した、枠組み (の説明) と定義されるのではないか。

何れにしても、“スキーマ・スキーム”は、ある人にとって、既に構築されているそれらを利用・活用したり、または、それによって支配されるものである。

また、別のある人にとっては、新たに「発案・構築」され得るものでもある。

しかしながら、全くゼロから他にはない新しい”スキーマ・スキーム”を構築することは容易ではなく、既存のそれらの組合せの中から”昇華”の形式で生まれることが殆どであるように思える。その上、生まれたそれら”スキーマ・スキーム”とは全く異質の”スキーマ・スキーム”とも共存していかなければ、その社会的存在は認められないこととなる。つまり、その構成要素は人であり、全体像は人々 (人の集合) であることから、異質のそれらを含む、複雑に入り組んでいる「ドメイン (信頼関係)」を整理・分析の上、改善点を見つけ出すことが、新規”スキーマ・スキーム”の成功の鍵となるのであろう。